

# ほとけの混和会だより

平成二十六年十二月  
東光院  
仏の混和会  
第108号



天台宗 祖師先徳顕印大法会 北総教区法要記念 平成26年11月21日 於 根本中堂  
慈覚大師円仁様の遺徳を偲んで比叡山に参拝致しました。

十一月二十一日、檀信徒の皆様と共に、日本仏教の母山と称せられる比叡山にお参りして参りました。

この度の参拝は、この比叡山を開かれた伝教大師最澄様のお弟子さんで、慈覚大師円仁様を北総教区で執り行う為の参拝だったのです。よって人数制限等がありまして、東光院と致しましては代表で役員様と合わせて五名で参拝させて頂きました。

## 比叡山参拝記



十一月二十日、北総教区の一、総勢百二十名は、バス三台に別れ、それぞれに一路比叡山へと向かいました。

私達下和泉部は、午前六時半東光院を出発し、渋滞に巻き込まれること無く、新東名、伊勢湾岸道に進み、午後二時、京都市内に到着、早々に京都東山の山頂、青蓮院飛び地境内の將軍塚を参拝。この將軍塚の青龍殿は、北野天満宮前にあった「平安道場」(旧大日本武徳会の武徳殿)を京都府より譲り受け、移築再建した建物で十月五日に落慶したばかりなのです。

そこは清水寺の舞台を上まわる大舞台が設置してあり、京都市内は元より、比叡の山々を排する聖地となっております。

生を受けます。(現在は壬生町と成っている)早くに父を失い九才で出家、十五才で比叡山に登り最澄様の弟子となり、二十三才で具足戒を受け、国家公認の僧侶となります。円仁二十四才の時、最澄様と共に関東の各地に御仏の教えを広められます。

そして円仁、二十九才の時、弘仁十三年六月四日、病床の最澄様が遷化せられ五十七年の生涯を閉じられます。その後円仁様は、東北の各地を布教されて、日光山輪王寺、埼玉県川越市の喜多院、松島の瑞巖寺、山形市の立石寺、岩手県平泉町の中尊寺、毛越寺、青森県恐山の円通寺など、慈覚大師が開祖(または中興)とされる寺が数多くあり、全国各地の由緒寺院は六百ヶ寺以上と言われております。

更に承和五年(888年)遣唐船で唐に渡り、長安滞在中の日記「入唐求法巡礼行記」は、当時の中国の有り様を克明に伝え、マルコポーロの「東方見聞録」、玄奘三蔵の「西遊記」とともに、三大旅行記として高く評価されております。その円仁様の穏徳を偲び、一一五〇年の遠忌法要を営まさせて頂きました。

青蓮院紅葉背に大舞台もみじして読経研す比叡山小春日や寄するさぎなみ夫婦岩 古川正崇

私達は、山頂の絶景と庭園の紅葉を堪能し、次に金閣寺へと進みます。すると、日没前の日の光が煌々と金閣寺を照らし輝いておりました。あまりにも美しい光景に、おもしろ皆さんと記念撮影を致しました。

その後、琵琶湖グラインドホテルに宿泊し、早朝午前七時三十分、比叡山に登り、比叡山の僧侶と北総教区の僧侶、総勢四十名の出仕により、根本中堂にて、慈覚大師千五百五十年御遠忌法要を、おごそかに勤められました。

法要の後、阿弥陀堂にて、参拝者、それぞれのご先祖様に感謝の念を捧げる廻向法要を勤めた後、延暦寺会館にて、精進料理を頂きました。

三日目はお伊勢参り、古来、伊勢神宮に参拝する前に夫婦岩の有るところの二見興玉神社で身を清めてから参拝するのが慣わしとの事、そこで、それぞれに己の汚れを清め、無事に帰

れますようにと帰路の安全を祈り、昨年度年遷宮された、真新しい内宮へお参りさせて頂きました。蛙は神の使いて道案内をするとの事「無事に蛙」



れますようにと帰路の安全を祈り、昨年度年遷宮された、真新しい内宮へお参りさせて頂きました。蛙は神の使いて道案内をするとの事「無事に蛙」



ねーねー お坊さん 慈覚大師さんは、なんで、そんなに仏教の教えて何ですか？



そうじゃないー これは、とても大事な事なんじゃない？ スペースが無いので簡単に説明するね。

最澄さんや慈覚大師さんのおられた時代、いや、現代に於いても同じような傾向が有るのじゃが、人々は生きる事の指針も道徳心も持ち合わせず侵略や殺略が公然と行われていて、人々は地獄さながらの生活をしていたのじゃよ。人々は安心に満たされる幸せな生活を送りたい。又やむをえず様々な過ちを繰り返してしまっただけ極楽往生出来るのだから、などと不安な日々を送って居たのじゃ。そこで最澄様や円仁様は人々の心のよりどころと成るようになり、又生きる事の指針と真の幸が得られるように、仏心育成の道場として、沢山のお寺を建立されたのじゃよ。

仏の心に 鬼の顔になる

もてば 観音の心に 観音の顔を みる

これは天台宗ハワイ別院の住職、荒了寛様の書です。お釈迦様は、次のように教えを説いて下さいました。

ものごとは、心にもとづき、心を主とし、心によつてつくり出される。もしも清らかな心で話したり、行ったりするならば福楽は、その人に付き従う。影がその体から離れないように。仏様の心「仏心」を抱き、共に他の幸を願ひ合う環境、「サンガ」を築いて参りたいと存じます。

If you have a heart like the Buddha, your face would reflect it; if you have a heart like the devil, your face would reflect it; and if you have a heart like the Kannon Bosatsu, your face will reflect it.

## 境内清掃奉仕のお願い

暮れの境内の清掃を執り行いたいと思います。もし、都合が付きましたならご奉仕お願いします。

日時 12月23日(火曜日)午前9時~12時の間で都合の良い時間で、お願いします。

〒270-1345 千葉県印西市船尾 622-1 (北総教区下和泉部) 東光院 電話0476-46-2471

うのじゃよ。先ず仏、「フツダ」とは、大自然の真理に目覚めた人、と言う意味で大自然、大宇宙そのものでも有るのじゃ。次に法、「ダルマ」とは、法という字の如く水が高いところから低いところへ去って行く、この大自然の営みそのものがフツダの教えで、あるがままに受け止めなさい。と言う事なんじゃ。そして僧、「サンガ」とは元々は衆僧と漢字に訳し、略して僧と記して有るけどお坊さんの事を言っているのでは無く、仏の教えに帰依し、感謝と懺悔の念の元に、共に他の幸を願ひ集い合う仲間の事を言うのじゃよ。